２０１６年度知の市場奨励賞の経緯と選考結果

「奨励賞の授与に関する規定」及び「奨励賞の選考基準に関する要領」に基づき、２０１６年度の奨励賞を次の候補者に授与する。

１．第一区分の個人

受賞候補者	推薦理由
長谷川　秀夫	２０１１年度から２０１４年度にわたり知の市場の共催講座を 5 科目受講するとともに、その知識と経験を生かして２０１２年度から知の市場の共催講座の講師を務めている。さらに受講を通じて得た知見と経験を活かして地域交流の場を創造し年齢を超えて活動の輪を広げており、今後さらに知の市場や地域社会の発展に資する活動の展開が期待される。
	※詳細は別紙参照

２．第二区分の個人（第 14 回協議会にて審議済み）

受賞候補者	推薦理由
安部　八洲男	２００９年度から防疫薬の管理に関する科目を開講して昆虫と人々の生活に係る講義を展開しており、今後とも人材育成と教養教育の発展及び知の市場の発展に資することが期待される。
	※参考 対象科目：「防疫薬総合管理」2009 年-2015 年 講義取り纏め回数：7 回 講義回数：20 回

知の市場奨励賞（2016 年度）の候補推薦状

2016 年 6 月 2 日

狭山商工会議所・狭山市産業労働センター
所　長　　栗　原　博　文
〒350-1305　埼玉県狭山市入間川 1-3-3
Tel　04-2946-7643　Fax　04-2946-7598

株式会社アダムジャパン
代表取締役　　関　根　沙　織
〒350-1305　埼玉県狭山市下広瀬 744
Tel　04-2969-6177　Fax　04-2969-6188

知の市場奨励賞規定に基づき、知の市場奨励賞（2016 年度）候補として下記の通り、推薦いたします。

記

１．被推薦者氏名
　　長 谷 川　秀 夫

２．所属並びに連絡先住所・TEL・e-mail
　　埼玉県狭山市中央 3-6　E-104
　　TEL　　04-2959-8471
　　e-mail　　hasegawa@p1.s-cat.ne.jp

３．推薦理由

対象者の長谷川氏は、２０１２年度の知の市場・狭山を学ぶ・ものづくり編 a（ビリヤード）のコース受講後、さらに受講者として活動するのみならず、自身の持つ「知」を提供し、狭山におけるコースの講師を務めている。これは知の市場の精神である「互学互教」の実践であり、それを自ら毎年複数のコースで実施している。

さらに、ビリヤードの有用性を活用し、高齢化社会における社会の課題（独居老人引きこもり防止・高齢者の体力維持・集中力確保・運動の維持）を少しでも和らげるための活動を行っている。また他の法人と協力してビリヤードにより児童を育成する活動を行うとともに、高齢者と児童の交流をビリヤードを

介して実践している。

このように、長谷川氏は知の市場で習得した精神を元に、講座を通じて知り得たビリヤードの有用性を活用し、「ビリヤードを介しての交流の場」を創造し、さらに必要な人材を知の市場を活用するなどして育成し、その人材の能力や知を顕在化させて活動をすることにより、「高齢者と若年層の交流」を実践し、地域における社会問題への対応と地域の活性化を図ることに向けて日々活動している。

もって長谷川氏を知の市場の「奨励賞」に推薦する。

なお、これまで行ってきた具体例を以下に記す。

（１）狭山商工会議所・狭山市が主催する知の市場の受講経歴

２０１１年度　知の市場・狭山を学ぶ・産業編１　修了
２０１２年度　同・同・ものづくり編ａ　修了
同　同・同・国際石油論　修了
同　同・同・企業編ｃ　修了
２０１４年度　同・同・ものづくり編ｂ　修了

（２）狭山商工会議所・狭山市が主催する知の市場の講師経歴

氏は自身の薬学博士としての知識と経験･体験等を活かし以下の講座の講師を務めている。

２０１２年度～２０１６年度　知の市場・狭山を学ぶ・企業編ｂ　講師（各年度１回）
２０１４年度・２０１５年度　知の市場・狭山を学ぶ・ものづくり編ｂ　講師（各年度１回）

（３）知の市場の経験に基づく展開や推進による地域への貢献

２０１２年度のものづくり編ａ（ビリヤード）のコース受講後、狭山市の運営する「元気プラザ」において一般向けの講座を企画運営し、ビリヤードの魅力を広く市民に向けて発信し、今後の社会における諸課題の解決ツールとしての１つとしてビリヤードを活用することを発想する。

ビリヤードというスポーツは、日本ではイメージは悪いが、そのスポーツとしての過酷さや面白味は深く、体力と精神力、集中力と忍耐力等を、プレーを通じて養うことが出来、それらは科学的にも証明されている。これを長谷川氏は子供向けのツールと高齢者向けのツールとして実践し、それを交流することによる社会課題の解決と地域活性化、ビリヤードのスポーツとしての普及の一助とするため活動を続けている。

２０１３年４月１日基礎団体となる「さやまビリヤード愛好会」を立ち上げ、活動を開始した。その構成員は、知の市場のものづくり a と狭山市の元気大学が主催するビリヤード指導者養成コース（内容はものづくり a と同様）の受講修了者で、団体としての活動は月に１回の研究例会を実施し、支援企業からプロプレイヤーやインストラクターの派遣を受けて技術習得に励む。他に活動者の増加を狙い一般向けのオープン講座も実施し、市民にビリヤードの魅力を広める活動を実践し、参加者を知の市場の受講者として誘導している。

２０１４年に活動者の１人が知の市場受講者である地元の学童保育に関する活動を実践する団体から依頼を受けて、そこに通う小学生児童に毎週火曜日にビリヤードを教える時間を確保し、さやまビリヤード愛好会の構成員が、小学生にビリヤードの技術を教えるとともに、ビリヤードを通じてのルールやマナーなど人間的な基礎力を教授し始める。

さらに、ビリヤードに限らず同愛好会の構成員の持つスキルを活用して、珠算や習字などを児童に教えることを開始し、活動の幅を広がった。

２０１５年には、地域の高齢者を対象に地域の行政施設を活用して、団地の中で暮らす高齢者に家から出てもらい、施設に集まりコミュニケーションをとる一つの方法としてビリヤードを使い、高齢者の健康増進と集中力の強化そして持続するための体力増強をビリヤードを通じ実践した。

さらに、子供と高齢者のビリヤードを介しての交流を実践している。

以　上